

藤本敏男元会長を偲んで

(i) 在りし日の藤本敏男さん

元会長 山上和則※

9月初旬の日曜日、珍しく休日出勤をしていたら、森閑とした事務所の電話が鳴りました。

自宅からか、と思いながら取ると、「藤本敏男の家内です」と名乗られました。お聞きすると、ご主人は1か月前の8月7日に89歳で亡くなられたが、日本ライセンス協会（「LES」）の会長さんから弔電をもらった、どのようにしたらよいか分からなくて電話した、という旨のお話でした。

私は、原嶋会長の連絡先をLESの名簿で調べて、直ぐにFAXで奥様にお送りするとともに、弔意の微意を表わす書状を認めました。

† † †

藤本さんは、6代目のLES会長として活躍されたが、何しろ30年も以前の1982年から2年間であるし、加えて、勤務先が関西で、LES関西本部からの会長であったため、現在のLES会員の方々はほとんどご存知ないと思います。そこで、藤本さんのひととなりについて、少々触れさせていただきます。

藤本さんは、1947年に京都大学工学部化学機械学科をご卒業後、当時の製鉄化学工業株式会社（現在、住友精化株式会社）に入社され、1984年には代表取締役専務、1988年に顧問というご経歴で、その間、同社の主力事業であったアンモニア等の新技術を米国や欧州から導入した際には担当者として、また、企画・技術部門の責任者となられてからは、現在の基盤事業である高吸水性樹脂事業の初期段階でのフランス企業への技術輸出や、酸素ガス発生装置のドイツからの技術導入などを指揮されたのです。



故 藤本敏男氏

藤本さんは、このようなキャリアを積まれる中で、知的財産やライセンスの重要性を深く認識され、社外の人達と広く交流することが社業発展のために必要であるとの信念から、LESにその活動の場を求められました。

LESでは、会員の信頼を得て、1982年には会長に就任され、LESインターナショナルの数々の国際会議に出席するなど、国際的にも活躍され、後進の範とするところ大でした。また、人材育成にも積極的に取り組まれ、例えば、私が主宰していた、知的財産およびライセンスに関する欧米の最新判例やニュースを勉強する『LES関西グループ研究会』に若手社員（現在、同社総務人事室（法務）部長の道簾守氏）を参加させるなど、後進の育成にも尽力されました。

† † †

次に、職場における藤本さんの一端をご紹介します。私の手元に、藤本さんが1974年に新取締役役に就任されたときの社内インタビュー記事があります（前出の道簾氏から提供を受けた社内誌による）。その当時、1973年後半からの石油危機によって日本経済は大混乱をきたしていたが、藤本さんは、会社の基本路線を決定する企画室の長として、次のように述べておられます。

「こうした不安定な状態は、まだしばらく続くと見ざるを得ないでしょう。こういう

中で、当社の全体を見通し、今後進むべき道を決定する企画室を担当しているわけで、責任の重大さを痛感している次第です。」

「要約していえば、既存の技術を生かせる分野で新しい仕事を拾いながら、企業規模を拡大していこうというわけです。」

「当社は規模からいって中堅に属し、工場も近くにあるし、まとまりがいいと思うんですよ。人間関係の面でも、互いによく知っているし、こうした人と人の和が企業では一番大切なものじゃないかと思えますね。互いに信頼関係に立った仕事をしていきたいと、常々考えています。」

以上のように、職場での藤本さんは、人の和を尊ばれ、堅実経営を信条とされる、立派な企業人であったことがわかります。

† † †

もう1つ、LESをめぐる藤本さんのエピソード。

毎年1回のLESインターナショナル世界大会への出席義務者は、LES日本の会長とデリゲート（代議員）で、あとは任意参加。したがって、1983年のミュンヘンでの世界大会へは、藤本会長とデリゲート（当時、協和醗酵工業株式会社〔現在、協和発酵キリン株式会社〕の知財部門の長であった小野恒一氏。藤本さんに次

いで、7代目会長に就任）の参加は当然として、`藤本内閣、の藤岡義枝副会長（当時、ダイキン工業株式会社の化学事業部・部長）も参加されました。このとき、参加費用の問題もあるので、藤本さんは、各国の人々が集うLESインターナショナル世界大会への参加の意義について、藤岡さんの上司である副社長（藤本さんの京大工学部の先輩）を説かれたことが功を奏した、と藤岡さんから仄聞しました。

末尾の貴重な写真は、ミュンヘンの`ホテル四季、（Hotel Vier Jahreszeiten）における晩餐会でのもので、藤岡さんから提供されました（左から、藤本さん・山上・藤岡さん）。

ちなみに、`藤本内閣、の理事であった私も参加し、ミュンヘン滞在中に、市内の美術館アルテ・ピナコテーク（Alte Pinakothek）に立ち寄ったら、東山魁夷展が開催中で、しかもご本人にお目にかかれるという僥倖を得ました。

† † †

藤本さんを知る人は、こぞって、温厚なご性格で、いつお会いしても笑顔が絶えない、ロマンスグレーの紳士であった、と評されます。

冒頭に述べた奥様からのお電話でも、「家では全く怒らない、いつも穏やかな主人でした」と言っておられました。

本当に裏表のない、誠実なお人柄の藤本さんでした。ご冥福を心よりお祈りいたします。



(ii) 追 悼

元理事 丸 山 敏 之^{※1}

1978年（昭和53年）、私の当協会入会当時、藤本敏男殿は幹部として当会を運営されておりました。新米の私は先輩方の会話の外にいて、会創設時の思い出話を興味深く拝聴したものでした。先輩メンバーのご逝去によって、時代に1つの区切りが出来た感じがします。

藤本殿はいつも温厚で柔和な紳士でした。会合の席におられるだけで、会の雰囲気は和み、参加者同士は親しくなりました。

山上弁護士殿の提唱でグループ研究会を発足したとき、藤本殿は当初のメンバーとして御参加下さり、様々な示唆を戴きました。あれがグ

ループ研究会に重みを付け、研究会を方向付けたと思います。

最近私が会活動に疎遠であったせいで、お会いする機会がなかったところ、突然ご逝去の報を受け、藤本殿とお付き合いした様々な場面が思い出されます。

日本ライセンス協会、とくに関西本部の基礎を造り、私たちに手渡して下さった藤本殿の功績は大きいです。有り難うございました。

ご冥福を願うと共に、今後も当会の行く末を見守って下さい。

(iii) 藤本さん追悼

元副会長 木 下 聰^{※2}

1982年～1983年に日本ライセンス協会会長をされた藤本様は二次会員制度を新たに設けられるなど企業経営者の立場・センスで協会の発展のために大変ご尽力されました。藤本会長の下では研修委員や広報委員などとしてご指導頂きましたが、第8回年次大会（1985年・淡路島）や創立20周年記念大会（1992年・長崎ハウステ

ンボス）で行事委員長を務めさせて頂いた際には公私ともにお世話になりました。年次大会と言えば、藤本さんが参加されるなら是非参加しようという気になったものです。当時の藤本さんの温かな笑顔が目には浮かびます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

※1 特許業務法人丸山国際特許事務所 所長・弁理士

※2 元 住友電気工業(株) 法務部 次長

(iv) 第6代会長藤本敏男様を偲ぶ

元副会長 伊藤良一*

藤本様が2年間の副会長職に続いて会長になられた1982年に私は（1978年に入会して5年目）初めて理事の末席を仰せつかり、爾後現在に至るまで、会の運営のお手伝いをさせて頂いている。

その当時はまだ日本LES協会と称していた。藤本会長の初年度の総会で会則が改正され、二次会員制度が導入された。また1978年に始まった年次大会の第5回が創立10周年記念として軽井沢・万平ホテルで開催された。このとき歴代会長を囲む座談会が行われ、初代岡野光彌～第6代藤本会長の全員がひな壇に並ばれて林泉副会長司会のもと、会の過去現在未来について大いに話し合われた。LESゴルフ大会がこのとき初めて併催された。会長経験者、永続会員等への表彰状・感謝状の贈呈もこの時が初めてで、以後5年ごとの周年記念大会で表彰をすることになった（2007年ののちは2006年6月施行の新表彰規則に従って運営）。また会誌Vol.23-3/4号を創立10周年記念特集号として発行。これは周年記念誌としては最初のものである。

藤本会長の2年目、1983年の総会で定款を全面改正して、会員の種類を正会員と特別会員の2種類とすることとし、総会、理事会等の議事運営に関する事項を明記し、また外国での行事にLESJを代表して参加する場合は経費の一部を会から補助することなどが定められた。このように藤本会長のご指導のもとの2年間で現在のLESJの基礎作りが次々となされた訳である。

藤本会長はこの2年間に開催された外国でのLESIの会議、具体的には1982年2月ミラノで開催されたLESI代表者会議に有賀美智子元会長と一緒に、また1983年5月ミュンヘンで開催

された同会議および国際会議に有賀元会長、小野恒一次期会長らとともに参加された。同年11月には東京でLESI代表者会議が開催され、これには小野次期会長らと出席、引き続き東京会館での国際セミナー（実行委員長：並川啓志副会長）開催に際してもホスト会長としての大役を見事に果たされた。これら内外のLESで活躍された藤本様のお姿は協会創立30周年記念誌（30周年の翌2003年12月発行）に掲載の多くの写真に藤岡義枝副会長らと並んで見る事が出来る。

予て日本LES協会という名称は三字目の「S」すなわち「SOCIETY」と「協会」が重複していることに違和感があったのを、「日本ライセンス協会」に変更することが決まったのは、1984年の定時総会でのことであるが、このことが議論され、内定したのは藤本会長時代の終わりの頃のことである。私も会の名称変更の提唱者の一人であった。

その後も藤本様には元会長、また理事（1990年まで）として会の運営を長らくご指導頂いた。1987年6月の第34回関西月例研究会では、製鉄化学工業(株)取締役企画室長の職務にあられた藤本様が、「私のライセンス経験」と題して講演をされた。

同年は創立15周年にあたるので、藤本様は元会長として表彰された。受賞者としてのご挨拶が周年記念特集号（会誌28巻4号（1987/12月））に掲載されている。この中で、前記軽井沢年次大会、内外でのdelegate meetingを含む数々の集まりで多くの知己をえたことは一生の思い出であると述べておられる。

藤本様が2013年8月7日に他界されて2か月近く経った10月初めのある日、西明石駅にほど近いお宅を弔問した。原嶋会長からの供花が飾られた仏壇で白髪・温顔の遺影を拝しながらお線香に火を点し、緑夫人からお話を伺った。

「日頃から健康で、50余年の会社勤務の間、休んだのは風邪で1～2度だけでした。LESで外国に何度も行きましたが、時差ボケはほとんどなく、帰国して直ぐ出勤していました。そのとき同行された藤岡義枝さんとは晩年までもおりおり電話でお話をしていました。」

後年、肝臓と胃の手術をされたが、強健な体力のお蔭で順調に回復し、薬からも完全に解放されたとのこと。好奇心旺盛で、近所に住む娘さんが運転免許を取られて車を買われたとき、勿体ないご自分も免許を取得された由。

「その後まもなくのこと、『ちょっと』と言って出かけ、ずいぶん経ってから電話がかかって来ました。『どこにいるの?』と聞いたら、明石海峡をフェリーで渡って淡路島の南の

方の洲本（西明石からは約50km）からで、びっくりしました。」

「歩くことに努め、私にも歩く様に勧めてくれていました。晩年は歩行が不自由になりましたが、頭はしっかりしていて、パソコンでひ孫らの写真を取り出しては楽しんでいました。」

「製鉄化学、社名変更して住友精化のあと、岩谷産業を経て岩谷ガスの専務時代に会社で使っていた椅子がとても気に入り、退職後、同じものを購入して書斎で愛用していました。」

5分前までしっかりされていたのに、突然意識喪失。愛用の椅子で大往生だったとのことである。

LESに賜った長年のご指導に対し心からお礼を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

以上